| 科目名【英】 | キャリアデザイン講座１ Course of career Design 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 尾崎　貴汎 | 実務者経験 | ホリスティックメディカルジャパン　代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 医療系学生としての目標の設定、日々の過ごし方、また医療人としての心構えや、社会に向けての心構え意識付け、一流の選手の考え方や行いを、座学やセッションを通して学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 医療系学生として、どこに出しても恥ずかしくないレベル、かつ卒業後社会人として即活躍できるレベルに到達する。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | その日の授業を、帰宅後の振り返りやワークで不完成な部分を完成させる。 |
|---|---|
| 使用教材 | 配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | （授業内）筆記試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | メンタル導入部 | 考え方やメンタルの重要性に気付き、今後の授業に役立てる。 |
| 2 | | 目的、目標セット | 個人の目的、目標を明確にし、日常生活のあり方に役立てる。 |
| 3 | | メンタルブレーントレーニング１ | オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。 |
| 4 | | メンタルブレーントレーニング２ | オリンピック選手や一流アスリートが学んでいるメンタルトレーニングを学び、日常生活は勿論のこと、医療人として社会人として重要な考えを説明できる。 |
| 5 | | 栄養学からみる内臓の仕組み | 栄養学からその栄養がどの様に体で使われているのかを知ることで、内情の仕組みなどに興味を持ち学ぶ事ができるようになる。 |
| 6 | | 勉強の仕方１ | 自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、勉強の仕方に気付き工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。 |
| 7 | | 勉強の仕方２ | 自転車を最初から乗れないように、勉強の仕方が分からないまたは、出来ていない学生が、　　勉強の仕方に気付き工夫することで、学生期間を有意義に過ごすことが説明できる。 |
| 8 | | 経営の為の知識 | 独立開業に当たってのお金と経営に関して、その関係性と意味を学び、<br>経営には何が必要かを説明できる。 |
| 9 | | 柔道整復師の仕事について | 自分がなろうとしている、柔道整復師とはどんな仕事をするのかを画像を踏まえながら創造し、自分がなりたい柔道整復師像を具体的に説明できる。 |
| 10 | | スポーツエンタメトレーナー１ | スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーとはどんな仕事をするのかを説明できる |
| 11 | | スポーツエンタメトレーナー２ | スポーツトレーナーとは、エンタメトレーナーには、どんな技術や考えが必要かを説明できる |
| 12 | | 高齢者からみる柔道整復師の役割 | 高齢者の特徴を学び、柔道整復師がどの様に関わるべきかを説明できる。 |
| 13 | | 筋力トレーニングから見る解剖 | 筋力トレーニングに必要な筋肉の起始停止を学び実践できる。 |
| 14 | | 筆記試験 | 今までの学びを振り返ることで半期の自分の成長を知ることができる。 |
| 15 | | マナーとなぜ仕事をするのか？ | 筆記試験の振り返りとともに、社会人としてのマナーの必要性と、なぜ仕事をするのかについて考え半期の授業の気付きの集大成とする。 |

| 科目名【英】 | キャリアデザイン講座２ Course of career Design 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | オンデマンド | 時　限 | オンデマンド |

| 担当教員 | 尾崎　貴汎 | 実務者経験 | ホリスティックメディカルジャパン　代表として20年鍼灸整骨院で治療運営。また、スポーツトレーナーとしてメディカル、フィジカル、メンタルに従事。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師として後療法での手技療法の知識と実技を身に付ける。 |
|---|---|
| 到達目標 | 身体の全身を筋肉を把握し、慰安目的の手技療法が出来るようになる |

| 準備学習<br>時間外学習 | 学んだ手技療法を自宅にて家族に施す。一人暮らしの場合は友人に施す。また、学んだ関連部位の解剖学を復習する。 |
|---|---|
| 使用教材 | 副教材として解剖学の教科書を持参して受講する事が望ましい |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 実技テスト１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーリング | この授業で行われる授業の理念、内容及び評価の仕方を説明できる |
| 2 | | 勉強についての | 技術と知識の重要性とやり方について説明できる |
| 3 | | 手技療法について | 手技療法の授業の進め方、学び方、基礎を学び説明できる |
| 4 | | 手技療法基礎　軽擦 | 手技療法の基礎を学び、軽擦が出来る |
| 5 | | ハムストリングへのアプローチ | ハムストリングに対して、手掌による圧迫法を用いて施術が出来る。また、ハムストリングの解剖学を学ぶ。 |
| 6 | | 下腿へのアプローチ | 脹脛に対して、拇指圧迫法、揉捏法、伸展法を用いて施術ができる。また、脹脛に対しての解剖学を学ぶ。 |
| 7 | | 足裏へのアプローチ | 足裏に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて施術ができる。また、足全般に対しての解剖学を学ぶ。 |
| 8 | | 今までの復習 | 人を入れ替えて、今まで学んできた手技を施し評価しあう。数人の体を触ることで、同じ部位でも人によってさまざまな違いがあることに気付く。 |
| 9 | | 腸脛靭帯へのアプローチ | 腸脛靭帯に対して、手掌強擦法を用いて施術ができる。また、腸脛靭帯等に対しての解剖学を学ぶ。 |
| 10 | | 殿筋へのアプローチ | 殿筋（大殿筋、中殿筋、梨状筋）に対して、拇指圧迫法、揉捏法を用いて用いて施術ができる。。また、殿筋群に対しての解剖学を学ぶ。 |
| 11 | | 腰へのアプローチ | 腰部に対して、拇指圧迫法を用いて出来る様になる。また、腰部に対しての解剖学を学ぶ。 |
| 12 | | 自分たちで評価 | 前期に学んできた手技療法を生徒同士で行いあい評価し合う。その時、金額も決めて自分たちの学んできたことに、実際社会で得られる評価を試みる。 |
| 13 | | 前期復習及び実技試験準備 | 前期学んできたことの復習と、実技試験への準備を行う |
| 14 | | 実技試験 | 面談方式による実技試験 |
| 15 | | 振り返り | 前期の実技試験の反省点と向上点の洗い出し |

| 科目名【英】 | 栄養学１ Nutrition１ | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 前田　美紀子 | 実務者経験 | 1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月･2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | (1) 美容栄養学、スポーツ栄養学を理解するための、栄養学の基礎的知識を習得する。<br>(2) バランスの良い食事と栄養バランスのチェック法を学ぶ。<br>(3) 消化と吸収・代謝の仕組みを理解し、時間栄養学の基礎を学ぶ。 |
| 到達目標 | (1) 美容栄養学、スポーツ栄養学への応用・実践に必要な、栄養学の基礎知識を習得する。<br>(2) 正しい食生活を科学的に理解し、適切なバランス栄養食の実践と評価ができるレベルに到達する。<br>(3) 時間栄養学を理解し、各食事の役割と食事の質と量・タイミングについて対応できるレベルに到達する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学・生理学・解剖生理学との関連を復習する。 |
| 使用教材 | 配布プリント（栄養学Ｉテキスト、課題） |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　課題プリント２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 基礎栄養学１ | 【オリエンテーション】<br>＊授業概要と授業目標の確認　＊受講ルール　＊成績評価方法<br>＊柔道整復師と管理栄養士の連携について説明ができる |
| 2 | | 基礎栄養学２ | 【栄養学概論】<br>＊栄養学の目的について説明ができる<br>＊人体の構成元素と構成成分について説明ができる |
| 3 | | 基礎栄養学３ | 【栄養と食品成分のはたらき<br>＊栄養と栄養素・非栄養素の違いについて説明ができる<br>＊食品中の成分と分類について説明ができる |
| 4 | | 基礎栄養学４ | 【バランス栄養食】<br>＊バランスの良い食事構成について説明ができる<br>＊栄養バランス・チェック法について評価・説明ができる |
| 5 | | 基礎栄養学５ | 【糖質の基礎知識】<br>＊炭水化物（糖質）分類について説明ができる<br>＊糖質の種類とはたらきについて説明ができる |
| 6 | | 基礎栄養学６ | 【脂質の基礎知識】<br>＊脂質の分類について説明ができる。<br>＊脂質の種類とはたらきについて説明ができる |
| 7 | | 基礎栄養学７ | 【たんぱく質の基礎知識】<br>＊たんぱく質の分類について説明ができる<br>＊アミノ酸の種類とはたらきについて説明ができる |
| 8 | | 基礎栄養学８ | 【ビタミンの基礎知識】<br>＊ビタミンの分類と特徴について説明ができる<br>＊ビタミンの過剰症と欠乏症について説明ができる |
| 9 | | 基礎栄養学９ | 【ミネラルの基礎知識】<br>＊ミネラル（無機質）の分類と特徴について説明ができる<br>＊ミネラルの過剰症と欠乏症について説明ができる |
| 10 | | 基礎栄養学10 | 【食物繊維の基礎知識】<br>＊炭水化物（食物繊維）の分類と特徴について説明ができる<br>＊食物繊維の種類とはたらきについて説明ができる |
| 11 | | 基礎栄養学11 | 【その他の成分の基礎知識】<br>＊体内における水分のはたらきについて説明ができる<br>＊機能性成分のはたらきについて説明ができる |
| 12 | | 基礎栄養学12 | 【栄養素の消化と吸収】<br>＊三大栄養素の消化と吸収のしくみについて説明ができる |
| 13 | | 基礎栄養学13 | 【時間栄養学】<br>＊時間栄養学に基づいた食事のとり方について説明ができる |
| 14 | | 基礎栄養学14 | ＊基礎栄養学のまとめ |
| 15 | | 基礎栄養学15 | ＊前期 期末試験の解答・解説 |

| 科目名【英】 | 医学英語 Medical English | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 1.2 |

| 担当教員 | 南　雅子 | 実務者経験 | 1989年より医療系専門学校にて医学英語指導/医師、薬剤師、東洋医療治療者、理学療法士,看護師、スポーツ関係者への英語指導 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復師としておさえておきたい基礎医学英語(症状名、身体名、バイタル、骨、筋肉、組織、神経、血液、医療略語、病院各科）と整骨治療、スポーツトレーニングにおける専門用語や診療に使う表現などを学ぶ。 |
| 到達目標 | 医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医学英語を習得した上で、柔道整復におけるさまざまな診療表現などを使えるようにする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 医学英語を学ぶ上での、人体や医療における基礎知識を医療や整骨の授業できちんと習得していくことが望ましい。 |
| 使用教材 | 教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育社)　/　教材プリント |
| 留意点<br>備　考 | 実際の治療現場で使えるさまざまな英語資料の提供と使いかたの実践も行う。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 診療会話などの発表と医療英単語の口頭試験を実施。前期末筆記試験70%＋発表及び口頭試験30%で評価する。 |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 医学英語1 | 授業内容の解説/専門英語へのwarm up/柔道整復基礎用語/Ch.1 受付の会話/<br>医学英語の概要を理解する。　MA A～B |
| 2 | | 医学英語2 | 柔道整復でよく使う症例名/Ch.2 病院各科の名称、Ch.3痛みの表現/presentation(1)英語の自己紹介<br>柔道整復治療において知っておきたい症例名をおさえる。　MA C～D |
| 3 | | 医学英語3 | Ch.３痛みの表現、人体の名称/ペインスケールの活用方/人体の名称/柔道整復関連用語(3)<br>さまざまな痛みの英語表現とペインスケールの活用法を学ぶ。　MA E～H |
| 4 | | 医学英語4 | 診療所の会話-受付、診察室(pair work)/Ch.4 症状名/一般的名症例名の言い方/人体の名称<br>整骨院の受付の会話、診察膝での会話を練習する。　MA I～N |
| 5 | | 医学英語5 | presentation(2)診療所の会話-受付、診察室の会話(pair work)/Ch.5,6 内蔵の名称、問診の表現<br>顔の名称/身体の名称捕捉 |
| 6 | | 医学英語6 | triger point/Ch.7内科診察室での英語/手指、足指関節の名称<br>治療に重要な原因や発生時の特定の言い方を学習する。　MA O～S |
| 7 | | 医学英語7 | 医療従事者の緊急時の英語/病院会話のヒント/CH. 9,10 バイタルサイン、救急/痛みの特定<br>バイタルサインの習得。緊急時に必要な表現を使えるようにすることを目標とする　MA T～Z |
| 8 | | 医学英語8 | 柔道整復の診療のための表現/カルテ/CH.9,10 外科、検査/関連用具の英語<br>診療で必要な表現を使えるようになることを目標とする。　MA カルテ略語 FX について |
| 9 | | 医学英語9 | CH.12 整形外科、整骨院(用語 フレーズ リスニング)/骨、筋肉の名称<br>整形外科、整骨院のリスニング練習により実践の英語になれる。/ presentation(3)説明 |
| 10 | | 医学英語10 | presentation(3)-柔道整復治療の診療会話(spript 提出)/関節可動域/膝靭帯/体組織<br>ch 13,14 リハビリ関連用語、表現可動域や膝靭帯の名称の習得、用具や指示の言い方の練習。 |
| 11 | | 医学英語11 | presentation(3)-柔道整復治療の会話/会計、薬/診療のキーフレーズ/炎症の５兆候<br>柔道整復治療の会話表現を各自考えて作成することによる理解の向上を目標とする。 |
| 12 | | 医学英語12 | presentation(3)柔道整復での会話/柔道整復で使える表現のまとめ/多言語問診票(英語以外の５カ国用)<br>柔道整復の治療の会話の発表をすることにより現場で使えることを目標とする。 |
| 13 | | 医学英語13 | oral test-柔道整復、医学用語関連の用語の口頭試験/テキストのまとめ<br>医療略語チェック/ここまでの見直し。 |
| 14 | | 医学英語14 | 前期末試験対策学習(柔道整復、整骨院の診療用語語およびフレーズ医学英語、医療訳語など)<br>試験勉強を通して学習内容の復習を目標とする。 |
| 15 | | 医学英語15 | 前期末試験返却、見直し/整骨院の問診票/柔道整復資料配布/緊急時の英語/work outの英語<br>整骨院やスポーツトレーニングで使える資料の解説する。 |

| 科目名【英】 | 解剖学１ Anatomy 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 中島　琢人 | 実務者経験 | 2009年～2013年　しんたにクリニックにてスキー外傷診療補助<br>2014年～2018年　ハチ高原にてスキー場パトロール |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 人体を構成する基本的な構造について理解したうえで、脈管系の知識を深める。 |
| 到達目標 | 脈管系の基本的な正常構造を説明することができる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 講義前までに該当範囲を確認し、講義後は必ず復習を実施すること |
| 使用教材 | 解剖学　改訂第２版　（医歯薬出版）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 文字だけで覚えるのではなく絵や動画なども合わせて、視覚的情報を用いて覚えるようにして下さい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験７０％　／　筆記小テスト２０％　／　平常点１０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 解剖学概論 1 | 人体解剖学概説　細胞の構造を理解し説明できるようになる。 |
| 2 | | 解剖学概論 2 | 人体解剖学概説　細胞の構造を理解し説明できるようになる。 |
| 3 | | 解剖学概論 3 | 人体解剖学概説　組織、発生について理解し説明できるようになる。 |
| 4 | | 解剖学概論 4 | 人体解剖学概説　組織、発生について理解し説明できるようになる。 |
| 5 | | 解剖学概論 5 | 人体解剖学概説　組織、発生について理解し説明できるようになる。 |
| 6 | | 脈管系 1 | 小テスト<br>血管・心臓の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 7 | | 脈管系 2 | 血管・心臓の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 8 | | 脈管系 3 | 動脈の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 9 | | 脈管系 4 | 動脈の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 10 | | 脈管系 5 | 動脈の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 11 | | 脈管系 6 | 静脈の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 12 | | 脈管系 7 | 静脈の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 13 | | 脈管系 8 | 小テスト<br>心脈管系(胎児)・リンパ系の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 14 | | 脈管系 9 | 心脈管系(胎児)・リンパ系の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 15 | | 試験解説 | 試験解説 |

| 科目名【英】 | 生理学１ Physiology 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 橘　吉寿 | 実務者経験 | 2003.11-現在　生理学・神経科学講座に在籍 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ |
|---|---|
| 到達目標 | 生理学1では、呼吸・循環など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原理を理解することを目標とする |

| 準備学習時間外学習 | 予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版） |
| 留意点備　考 | 副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる |

| 成績評価 | 期末筆記試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 生理学1 | 生理学概論<br>生理学とは何か・ホメオスタシスとは何かを説明することができる。 |
| 2 | | 生理学2 | 細胞の構成要素を知る<br>核の構造・細胞小器官について説明することができる。 |
| 3 | | 生理学3 | 細胞の基本的な機能を知る<br>細胞膜の機能・細胞内外における分子・イオンの流れを説明することができる。 |
| 4 | | 生理学4 | 血液の組成と造血機構<br>血液の構成要素とその成り立ちを説明することができる。 |
| 5 | | 生理学5 | 血液型・血液凝固・免疫のしくみ<br>血液の凝固機構、血液型のしくみ、免疫のしくみを説明することができる。 |
| 6 | | 生理学6 | 心臓の構造・心筋の基本的性質1<br>心臓の構造について説明することができる。 |
| 7 | | 生理学7 | 心筋の基本的性質2<br>心筋の収縮・伝導系について説明することができる。 |
| 8 | | 生理学8 | 心電図・不整脈について<br>心電図のしくみ・不整脈について説明することができる。 |
| 9 | | 生理学9 | 血管の構造と働き<br>血管の構造・機能と血圧の成り立ちについて説明することができる。 |
| 10 | | 生理学10 | 局所循環とリンパ・脳脊髄液について<br>局所血液循環、リンパ・脳脊髄液の組成・機能について説明することができる。 |
| 11 | | 生理学11 | 循環の調節<br>血圧のしくみ・制御機構について説明することができる。 |
| 12 | | 生理学12 | 呼吸器の構造・換気のしくみ<br>呼吸器の構成要素・換気のメカニズムについて説明することができる。 |
| 13 | | 生理学13 | ガス交換のしくみ<br>呼吸器ならびに血液におけるガス交換のしくみについて説明することができる。 |
| 14 | | 生理学14 | 呼吸調節機構<br>呼吸調節機構を説明することができる。 |
| 15 | | 試験解説 | 試験の振りかえり |

| 科目名【英】 | 柔道１ Judo 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 坂本 美和子 | 実務者経験 | 他校(専門学校)を含め週12時間以上、20年間講師を務める |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のＴシャツ |
| 留意点<br>備　考 | メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。 |

| 成績評価 | 実技試験８０％　/　平常点２０％(授業態度と出欠) |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 自己紹介と受講のきまり | 自己紹介と授業を受けるための心構え、受講の決まりを把握する。 |
| 2 | | 柔道衣の着方と掃除方法 | きちんとした柔道衣を着る方法を学び、掃除の方法を学び、出来るようになる。 |
| 3 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の方法を知り、学ぶ。後ろ受身を学び、理解する。 |
| 4 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。長座からの受身を知り、学ぶ。後ろ受身10×3セット　長座からの受身10×2セット |
| 5 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。中腰からの受身を知り、学ぶ。後ろ受身2セット　長座からの受身3セット　中腰からの受身10×2セット |
| 6 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。2人組中腰からの受身を知り、学ぶ。長座からの受身3セット 2人組中腰からの受身10×3セット　横受身の予習 |
| 7 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。横受身を知り、学ぶ。中腰からの受身3セット　横受身10×3セット |
| 8 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。移動後ろ・横受身の方法を知り、学ぶ。前回り受身の形の説明をし、知り、学ぶ。 |
| 9 | | 礼法と受身 | 立礼・座礼の確認と復習。移動後ろ・横受身2往復　前回り受身を左右3×2セット |
| 10 | | 礼法と立技 | 立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　組み方、動き方を知り、学ぶ。 |
| 11 | | 礼法と立技 | 立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　肩幅調べ(自然本体)　自分の肩幅を知る。前回りさばきを知り、学ぶ。 |
| 12 | | 礼法と立技 | 立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　支釣込足を知り、学ぶ。 |
| 13 | | 礼法と立技 | 立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　一本背負投を知り、学ぶ。 |
| 14 | | 礼法と受身 | 立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　試験の説明と練習 |
| 15 | | 礼法と立技 | 試験の解説　立礼と座礼。移動後ろ・横受身　前回り受身左右3×2セット　試合の礼法を知り、学ぶ。 |

| 科目名【英】 | 柔整総論１ General Judo Therapy 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 岩田　早紀 | 実務者経験 | 2013年4月～2017年3月　病院に所属<br>外来の物理療法をおこなう |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復学総論（骨折について）を学ぶ。 |
| 到達目標 | 骨折の総論部分を人に説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 柔道整復学の教科書を読み込んでおく。 |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編 改定第７版 |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 小テストを１回実施する。【期末試験70%、小テスト10%、平常点20%】 |

| 授業計画 【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 人体に加わる力 | 柔道整復師への到達目標（オリエンテーション）を行い各自設定させる。<br>人体に加わる力について説明することができる。 |
| 2 | | 損傷時に加わる力 | 損傷時に加わる力について説明することができるようになる。 |
| 3 | | 骨の形態と機能 | 骨の形態と機能について説明することができるようになる。 |
| 4 | | 骨損傷の概要 | 骨損傷の概要について説明することができるようになる。 |
| 5 | | 骨折の分類 | 骨折の分類について説明することができるようになる。 |
| 6 | | 骨折の症状 | 骨折の症状について説明することができるようになる。 |
| 7 | | 骨折の合併症 | 骨折の合併症（併発症・続発症・後遺症）について説明することができるようになる。 |
| 8 | | 小児骨折 | 小児骨折の特徴について説明することができるようになる。 |
| 9 | | 高齢者骨折 | 高齢者骨折の特徴について説明することができるようになる。 |
| 10 | | 小テスト | 前回までの範囲の理解度を確認し、不足知識の認識を行う。 |
| 11 | | 骨折の治癒過程 | 骨折の治癒過程について説明することができるようになる。 |
| 12 | | 骨折の予後 | 骨折の予後について説明することができるようになる。 |
| 13 | | 骨折の治癒に影響を与える因子 | 骨折の治癒に影響を与える因子を説明することができるようになる。 |
| 14 | | 全範囲の復習 | 全範囲の理解度を確認し、試験に向けた対策を行う。 |
| 15 | | 試験解説 | 骨折総論で知っておくべき知識の再確認、ポイントを説明することができるようになる。 |

| 科目名【英】 | 柔整総論２<br>General Judo Therapy 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 堀口　晃一 | 実務者経験 | 整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師の業務範囲を理解し、治療法を実践できるようにする。患者の指導管理・外傷予防を身につける。 |
|---|---|
| 到達目標 | 柔道整復師としての治療法を知り各処置での注意点を理解する。<br>また、怪我を未然に防ぐための活動について理解し、説明することができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 学んだあと、プリントで復習する。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『解剖学』（医歯薬）、『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 配布プリントをしっかり復習すること |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 柔道整復師の沿革 | 沿革と業務範囲の理解し説明できる。 |
| 2 | | 診察１ | 診察時の注意点・病歴の聴取ができる。 |
| 3 | | 診察２ | 身体診察の流れ・診療録の記載ができるようになる |
| 4 | | 骨折の整復法１ | 徒手整復時の配慮・非観血的整復の要点を理解し説明できる。 |
| 5 | | 骨折の整復法２ | 整復の一般的原則、屈曲整復・牽引勅圧法の理解し説明できる。 |
| 6 | | 脱臼の整復法１ | 脱臼の整復法・非観血整復の要点を理解し説明できる。 |
| 7 | | 脱臼の整復法２ | 整復の一般的原則、整復法の理解し説明できる。 |
| 8 | | 軟部組織損傷の初期処置 | RICE処置法の理解し説明できる。 |
| 9 | | 固定法 | 固定施行時の注意、固定後の配慮を理解し説明できる。 |
| 10 | | 手技療法 | 手技療法の基本型を理解し説明できる。 |
| 11 | | 手技療法の実際 | 手技療法を実際試して理解し説明できる。 |
| 12 | | 運動療法 | 運動療法の基本型の理解 |
| 13 | | 指導管理 | 患者の環境・スポーツ活動に対する指導管理が理解し説明できる。 |
| 14 | | 外傷予防１ | 身体の基礎的状態の評価を理解し説明できる。 |
| 15 | | 外傷予防２ | 特異的予防について理解し説明できる。 |

| 科目名【英】 | 柔整総論３<br>General Judo Therapy 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 竹田　英樹 | 実務者経験 | 1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。<br>2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。<br>軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）、解剖学教科書 |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 関節の構造と機能１ | 関節の構造について理解し、説明することができるようになる。 |
| 2 | | 関節の構造と機能２ | 関節の構造について理解し、説明することができるようになる。 |
| 3 | | 関節の構造と機能３ | 関節の構造について理解し、説明することができるようになる。 |
| 4 | | 脱臼１ | 脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。 |
| 5 | | 脱臼２ | 脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。 |
| 6 | | 脱臼３ | 脱臼の定義、各種分類を理解し説明できるようになる。 |
| 7 | | 脱臼４ | 脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。 |
| 8 | | 脱臼５ | 脱臼の各種分類、症状を理解し説明できるようになる。 |
| 9 | | 脱臼６ | 脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。 |
| 10 | | 脱臼７ | 脱臼の合併症を理解し説明できるようになる。 |
| 11 | | 脱臼８ | 脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。 |
| 12 | | 脱臼９ | 脱臼の整復障害を理解し説明できるようになる。 |
| 13 | | 脱臼１０ | 脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。 |
| 14 | | 脱臼１１ | 脱臼の経過と予後を理解し説明できるようになる。 |
| 15 | | 試験解説 | 前期試験解説を行い忘れている内容を再確認する。 |

| 科目名【英】 | 柔整総論４<br>General Judo Therapy 4 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 竹田　英樹 | 実務者経験 | 1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。<br>2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 軟部組織の損傷を理解するのに必要な関節構成組織、捻挫、脱臼の分類、発生機序、治癒過程などについて学習する。 |
| 到達目標 | 解剖学の骨筋とリンクできるよう関節の構造、動きのメカニズムを理解し説明することができるようになる。<br>軟部組織の損傷から治癒に至る経過の理解をし説明することができるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の予習（特に骨・筋学）が必要。 |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）、解剖学教科書 |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 関節構成組織の損傷１ | 靭帯損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 2 | | 関節構成組織の損傷２ | 靭帯損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 3 | | 関節構成組織の損傷３ | 関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。 |
| 4 | | 関節構成組織の損傷４ | 関節損傷の分類について理解し、説明することができるようになる。 |
| 5 | | 関節構成組織の損傷５ | 靭帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 6 | | 関節構成組織の損傷６ | 靭帯、関節包の損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 7 | | 関節構成組織の損傷７ | 関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 8 | | 関節構成組織の損傷８ | 関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 9 | | 関節構成組織の損傷９ | 関節軟骨の損傷について理解し、説明することができるようになる。 |
| 10 | | 筋の損傷１ | 筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。 |
| 11 | | 筋の損傷２ | 筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。 |
| 12 | | 筋の損傷３ | 筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。 |
| 13 | | 筋の損傷４ | 筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。 |
| 14 | | 筋の損傷５ | 筋組織の損傷から治癒へ至る内容を理解し説明できるようになる。 |
| 15 | | 試験解説 | 前期試験解説を行い忘れている内容を再確認する。 |

| 科目名【英】 | 柔整基礎講座<br>Course of Basic Judo Therapy | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 井上　亜久吏 | 実務者経験 | 2015/4～2020/3　接骨院にて勤務 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復師にとって必要な解剖学(神経と感覚器)の基礎を学ぶ |
|---|---|
| 到達目標 | ヒトを動かすメカニズムの一旦を担う神経に興味を持ち、構造を説明することができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 教科書を読む |
|---|---|
| 使用教材 | 南江堂（解剖学）資料ノート |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | ヒトの身体の仕組みを知り、勉学に対する更なる意識付けを行う。 |
| 2 | | 神経① | 神経系とは？との概論に説明することが出来る。 |
| 3 | | 神経② | 神経細胞について説明することが出来る。 |
| 4 | | 神経③ | 神経にまつわる解剖学用語について触れる。脊髄構造を説明出来るようになる。 |
| 5 | | 神経④ | 脳幹構造について説明出来るようになる。 |
| 6 | | 神経⑤ | 間脳構造について説明出来るようになる。 |
| 7 | | 神経⑥ | 大脳構造について説明出来るようになる。 |
| 8 | | 神経⑦ | 頸神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。 |
| 9 | | 神経⑧ | 腕神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。 |
| 10 | | 神経⑨ | 腰神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。 |
| 11 | | 神経⑩ | 仙骨神経叢の仕組みと支配筋について説明できるようになる。 |
| 12 | | 神経⑪ | 自律神経系について説明できるようになる。 |
| 13 | | 感覚器① | 視覚器構造について説明できるようになる。 |
| 14 | | 感覚器② | 聴覚器構造について説明できるようになる。 |
| 15 | | まとめ | 前期の総復習を行い、相手に説明するプレゼンテーション |

| 科目名【英】 | 基礎包帯固定学１<br>Basic Method of Bandage and Fixation Procedures | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 岩崎英明 | 実務者経験 | 1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 基本包帯を巻けるようになる。<br>アルミ副子、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。 |
| 到達目標 | 基本包帯を巻けるようになる。<br>樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。 |
| 使用教材 | プリント配布 |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 導入 | 実技ガイダンス<br>包帯の巻取り、包帯学を学び、説明できるようになる。 |
| 2 | | 指の包帯１ | 隻指帯、全指帯が巻けるようになる。 |
| 3 | | 指の包帯２ | 中指、環指に全指帯あ巻けるようになる。 |
| 4 | | 指の包帯３ | 指頭包か帯が巻けるようになる。 |
| 5 | | 固定具 | プライトンにて副子作成の基本的な使用方法、注意点を習得する。 |
| 6 | | 指の包帯４ | 母指上行麦穂帯が巻けるようになる。 |
| 7 | | 指の包帯５ | 復習（これまでの包帯法を思い出し、名称を言われただけで目的の包帯法を行うことができる） |
| 8 | | 評価 | 中間評価、緊張感を持った状態で患者に巻くことができるレベルに近づけることができる。 |
| 9 | | 手関節の包帯１ | 手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（右患肢） |
| 10 | | 手関節の包帯２ | 手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（左患肢） |
| 11 | | 手関節の包帯３ | 手関節上行麦穂帯が巻けるようになる。（左患肢）前腕の包帯の巻き方を知る。 |
| 12 | | 前腕の包帯 | 前腕の包帯が巻けるようになる。 |
| 13 | | 総復習 | 隻指帯、全指帯、指頭包か帯 |
| 14 | | 総復習 | 母指上行麦穂帯、手関節上行麦穂帯、前腕の包帯 |
| 15 | | まとめ | 試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。 |

| 科目名【英】 | 柔整解剖Ａ<br>Anatomy of Judo Therapy | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 小田垣　典行 | 実務者経験 | 2003年4月からおだがき鍼灸整骨院にて従事する。<br>現在に至る。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 骨の基本的構造、骨の名称、骨の各部の名称、各関節の構造を学ぶ。 |
| 到達目標 | 骨の名称、各部の名称を覚え、体表からその位置を理解し触知することができるレベルに到達し、後期の筋の理解に役立つようにする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 前時間の復習（特に漢字で書けるようにすること）を行う。 |
| 使用教材 | 教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　小テスト２０％（授業毎に次回に小テストを実施） |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 骨１ | 総論（骨の役割・形状・表面に関する用語）　上肢骨の構成<br>長骨・短骨など違いを理解し、鎖骨の名称を知り体表から触知できるようになる。 |
| 2 | | 骨２ | 総論（骨の構造・成長）　各論（肩甲骨）<br>骨の構造を理解し、肩甲骨の名称を知り体表から触知できるようになる。 |
| 3 | | 骨３ | 器官系統　各論（鎖骨　上腕骨）<br>鎖骨・上腕骨の名称を知り体表からの触知できるようになる。 |
| 4 | | 骨４ | 各論（橈骨・尺骨・手の骨）<br>橈骨・尺骨・手の骨の名称を知り体表から触知できるようになる。 |
| 5 | | 骨５ | 各論（手根骨　寛骨）<br>手根骨の名称と位置関係を知り体表から触知ができ、寛骨の名称を知り体表から触知できるようになる。 |
| 6 | | 骨６ | 各論（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足の骨）<br>大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足の骨の名称の理解と体表から触知できるようになる。 |
| 7 | | 骨７ | 各論（足根骨　胸骨　肋骨）<br>胸骨・肋骨（真肋と仮肋と浮遊肋の違い）の名称の理解と体表から触知でき、足根骨の位置を説明できるようになる。 |
| 8 | | 骨８ | 各論（椎骨の基本的構造・頚椎・頚椎の特異型・胸椎）<br>椎骨の基本形・頚椎の構造の理解し説明できるようになる。 |
| 9 | | 骨９・関節１ | 各論（腰椎・仙骨・骨盤・上肢の関節）<br>腰椎・仙骨の構造や骨盤を構成する骨や分界線を理解し説明できるようになる。上肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。 |
| 10 | | 関節２ | 各論（上肢・下肢の関節）<br>上・下肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。 |
| 11 | | 関節３ | 各論（下肢の関節・頭蓋骨の分類・後頭骨）<br>下肢の関節の名称とそれに付属する靭帯・関節の動き知り説明できるようになる。<br>頭蓋骨を分類し、後頭骨の名称を理解し説明できるようになる。 |
| 12 | | 骨１０ | 各論（側頭骨・下顎骨・頭蓋骨の残り）<br>側頭骨・下顎骨の名称を理解し説明できるようになる。頭蓋骨の名称や眼窩を構成する骨や泉門を理解し説明できるようになる。 |
| 13 | | 骨１１・関節４ | 各論（脊柱の連結・胸郭の連結）<br>脊柱と頭蓋の名称や胸郭付属する靭帯や関節の動きを理解し説明できるようになる。 |
| 14 | | 関節５<br>体表解剖 | 各論（体表解剖P275～280）　前期の復習<br>体表から骨の隆起、突起等を触知できるようになる。 |
| 15 | | テスト解説・筋 | テスト解説<br>骨格筋の総論：起始・停止・動きの理解し説明できるようになる。 |

| 科目名【英】 | 柔整生理Ａ<br>Physiology of Judo Therapy A | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 土曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 上田　純 | 実務者経験 | 2002～2010大学病院、公立病院に勤務、2010～開業 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 神経、筋を中心に生理学を学ぶ。動物機能を基礎から学び、運動生理学の理解へつなげる。 |
|---|---|
| 到達目標 | 国家試験の生理学分野の知識を習得する。解剖学、病理学、運動学、一般臨床医学をはじめとした他の科目の学修にあたり、必要な基礎知識を習得する。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 教科書、配布プリント、及びノートの予習復習を欠かさないこと |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書「生理学　第4版」（南江堂） |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 期末筆記試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 筋の生理１ | オリエンテーション、骨格筋の構造について説明ができる。 |
| 2 | | 筋の生理２ | 骨格筋の収縮と弛緩について説明ができる。 |
| 3 | | 筋の生理３ | 骨格筋と張力、筋電図について説明ができる。 |
| 4 | | 筋の生理４ | 心筋と平滑筋について説明ができる。 |
| 5 | | 神経の生理１ | ニューロン、静止膜電位、活動電位について説明ができる。 |
| 6 | | 神経の生理２ | 活動電位の伝導、シナプスについて説明ができる。 |
| 7 | | 神経の生理３ | 神経伝達物質、神経系の構成について説明ができる。 |
| 8 | | 神経の生理４ | 脳の構造、大脳皮質について説明ができる。 |
| 9 | | 神経の生理５ | 高次機能（睡眠、覚醒、脳波）について説明ができる。 |
| 10 | | 神経の生理６ | 自律神経の分類、分布について説明ができる。 |
| 11 | | 神経の生理７ | 自律神経の構成について説明ができる。 |
| 12 | | 神経の生理８ | 運動に関係する中枢神経について説明ができる。 |
| 13 | | 神経の生理９ | 運動神経と運動単位について説明ができる。 |
| 14 | | 復習 | 前期のまとめ |
| 15 | | 試験解説 | 前期試験解説、振り返り |

| 科目名【英】 | ボディメイクトレーナー講座１<br>Course of Bodymaking Trainer Skill 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 6 |
| 担当教員 | 油谷 脩 | 実務者経験 | SMART SYSTEM STRENGTH所属。小学年代からプロカテゴリーまでのトレーニング指導に従事(6年) | | | | |

| | |
|---|---|
| 学習内容 | トレーニング効果を最大化するための6つの階層 / 筋肥大や筋力向上のためのボリューム・強度・頻度設計<br>エクササイズ選択・分割法・トレーニング技術 / 実際のプログラム設計演習<br>エネルギーバランスと体組成変化の関係 / PFC（タンパク質・脂質・炭水化物）の重要性と調整法<br>栄養摂取のタイミングによる運動効果の差 / 信頼できるサプリメントと無意味な製品の見極め |
| 到達目標 | ・個人またはクライアントの目的に応じたトレーニング・栄養摂取の統合的プランを作成・発表できる。<br>・健康的で持続可能な肉体改造を進めるための心理的アプローチも理解し、実践できる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 特になし |
| 使用教材 | 配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 最終プレゼン50%/小テスト(授業内の質疑応答も含む)35%/出席15% |

| 授業計画 【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーションとピラミッド概論 | ピラミッドモデルの背景・全体像□ |
| 2 | | トレーニングピラミッド①「継続すること」 | 継続の重要性・習慣化・行動心理 |
| 3 | | トレーニングピラミッド②「ボリューム」 | セット数・レップ数・頻度の基本□ |
| 4 | | トレーニングピラミッド③「インテンシティ」 | 強度設定・RPE・最大筋力との関係 |
| 5 | | トレーニングピラミッド④「頻度」 | 部位別の頻度調整・分割法 |
| 6 | | トレーニングピラミッド⑤「エクササイズ選択」 | 種目の原則・基本種目と補助種目 |
| 7 | | トレーニングピラミッド⑥「テクニック＆テンポ」 | フォーム・可動域・動作速度□ |
| 8 | | プログラム作成演習① | 自分または想定クライアントの簡易プログラム設計 |
| 9 | | 栄養ピラミッド①「エネルギーバランス」 | 摂取量と消費量・体重変動□ |
| 10 | | 栄養ピラミッド②「三大栄養素」 | PFCバランス・量の調整方法 |
| 11 | | 栄養ピラミッド③「微量栄養素・水分摂取量」 | 微量栄養素の効果的な摂取方法 |
| 12 | | 栄養ピラミッド④「栄養摂取タイミング」 | 食事のタイミングと運動効果 |
| 13 | | 栄養ピラミッド⑤「サプリメント」 | 効果がある vs 無駄なサプリ分類 |
| 14 | | プログラム作成演習② | 栄養計画＋トレーニングの統合デザイン |
| 15 | | プレゼン＆フィードバック | 自分のプランを共有・講評 |

| 科目名【英】 | ボディメイクトレーナー講座２<br>Course of Bodymaking Trainer Skill 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 前期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 6 |
| 担当教員 | 栗山　恵美 | 実務者経験 | 2016年よりヨガインストラクターとして公民館、美容専門学校などでレッスンを実施。2018年よりボディビル大会に出場。2022年よりパーソナルトレーナーとして活動中。 | | | | |

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 『健康で美しい身体作りを指導出来るスペシャリスト』を養成する。柔道整復術（外傷治療）＋健康と美容に特化した教育を目指す。身体を機能的に使うことにより治療効果の持続も狙う。（こちらで言う美容とは身体そのものの美しさを意味する。） |
| 到達目標 | 自分の手技で改善出来るのか。筋肉トレーニングで改善出来るのか、装具、歩き方の指導、整形外科などの専門家との連携が必要なのか、判断出来る能力を身に付ける。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | ご自身の生活に運動習慣の取り入れ、食事、睡眠の見直しが必要。 |
| 使用教材 | 配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 参考資料などに関しては授業ごとに紹介する場合もあります。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技試験５０％　/　筆記試験５０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 正しい姿勢とは（立位、椅子座位） | 正しい姿勢とは？正しくない姿勢の傾向を知り、自身の姿勢タイプを把握する。<br>【目標】患者の姿勢をいち早く判断出来る。 |
| 2 | | 正しい歩き方、走り方とは（足裏の使い方、重心） | 正しい歩き方、走り方・足裏の使い方を知る。ウォーキング実践。<br>【目標】歩き方指導が出来る。 |
| 3 | | 足の形、靴底の減り方を知る。靴の選び方 | 足の形、靴底の減り方から導き出す靴選びのポイント。<br>【目標】足裏の形、悩みから引き起こす諸症状を知り治療やアドバイスに役立てる。 |
| 4 | | 就寝時の姿勢、腰痛など痛みの改善方法、枕の選び方。睡 | 就寝時の姿勢による身体に及ぼす影響を知る。快適な睡眠を得る日常の心得。枕選びのコツ。自身の睡眠環境を知る。身体の不具合別寝具の選び方。<br>【目標】適切な睡眠環境のアドバイスが出来る。 |
| 5 | | 健康、ダイエットなどを考える上での食事の考え方 | ダイエットとは何か？食事・栄養摂取のノウハウを知る。<br>【目標】身体を変える事により身体へのメリットをアドバイス出来る。 |
| 6 | | 男女別、年齢別、目的別一日の摂取カロリーの考え方。ライ | 摂取カロリーの計算方法や５大栄養素を知る。<br>【目標】食事摂取の大切さを理解しアドバイスが出来る。 |
| 7 | | プロテイン、サプリメントの種類や摂取方法） | プロテインパウダーの必要性・サプリメンテーション法、選択方法を知る<br>【目標】取捨選択がうまく出来るようになる。 |
| 8 | | 筋肉トレーニング、有酸素運動の目的とは。 | 筋肉トレーニングの重要性、有酸素運動の重要性、方法を知る。<br>【目標】患者に対して治療効果を上げる方法を知りアドバイス出来るようになる。 |
| 9 | | 怪我、持病、既往症がある方のトレーニング方法 | 怪我、既往症、持病がある方のトレーニング方法を知る。（妊婦、高血圧、障害者、高齢者など）【目標】患者様の身体の状態を把握し、適切なアドバイスが出来る。 |
| 10 | | ストレッチ、ケア方法。身体が固い人VS柔らかい人との違い | ストレッチ、ケア方法を知る。怪我をしない為の予防策を知る。<br>【目標】患者様に必要なケア方法を知り治療効果を上げていく事が出来る。 |
| 11 | | メンタルと筋トレの関係性 | メンタルと筋肉トレーニングとの関係を知る。（鬱、パニック症状などの現在病から運動の必要性を考える）【目標】現在病が心身に及ぼす影響を知る事が出来る |
| 12 | | 睡眠の科学。睡眠不足が及ぼす身体への影響とは | 健康・筋肉と睡眠の関係を知る。<br>【目標】自身の睡眠改善パフォーマンス力向上を知る事が出来る。 |
| 13 | | 解剖学に基づく身体を機能的に使うとは | 解剖学から考える機能的な身体の使い方を知る。患者の身体のクセを理解し、正しい動きへと導くアドバイスが出来る<br>【目標】治療を行う上で最も大切な解剖学と共に理解が出来る。 |
| 14 | | クライアントに対してのマナー・ホスピタリティ | クライアントに対しての接し方、マナーやホスピタリティを知りリピート客を獲得するための心得を学ぶ。【目標】お客様が居る事で仕事が出来ると言う前提でのマナーやホスピタリティを身につける事が出来る |
| 15 | | 筋トレ実践・ロープレ・小テスト | クライアントへの筋トレ指導ロープレ・小テスト |

| 科目名【英】 | キャリアデザイン講座３<br>Corse Career Design 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 土曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 武村俊哉・江頭麻里 | 実務者経験 | 2020年4月より東洋医療専門学校のキャリアセンターに入職。<br>学生の社会人基礎の育成や就職サポートを行う。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | ・グループワークを通して「話す」「聞く」「書く」が一通りできるように学ぶ。<br>・社会人基礎力を学び、マナーやコミュニケーションについて学ぶ。<br>・今までのキャリアを振り返り、今後のキャリアをデザインする。 |
|---|---|
| 到達目標 | ・社会人として、また職業人として生きるためのスキルを習得する。<br>・現場で良好な関係性を築くことのできるコミュニケーション力を身に付ける。<br>・自らのキャリアをデザインすることができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 次回の学習内容についての予習が必要。授業内で扱った内容を将来を想定し復習をする。 |
|---|---|
| 使用教材 | 配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 本講義は、実習を交えた授業を実施する。毎回の積極的な学生同士のコミュニケーションが求められる。 |

| 成績評価 | 提出物（５０%）、課題評価（３０%）、平常点（２０%） |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 【江頭】<br>マナー① | 「挨拶」「身だしなみ」「敬語」について学び、ビジネスマナーを身に付けることができる。 |
| 2 | | 【江頭】<br>マナー② | ケーススタディから電話応対や面接のマナーを身に付けることができる。 |
| 3 | | 【武村】<br>キャリアとは | 柔道整復師を目指すために何が必要か？今後やるべきことを見つめる。<br>クラス内で共有し自分自身の目標を形にする。 |
| 4 | | 【武村】<br>コミュニケーション | 接客スキル向上に必要なコミュニケーションの基本を学ぶ。 |
| 5 | | 【武村】<br>文章力 | 自分の伝えたいことの要点をまとめて正しい文章を書くことができる。<br>レポートと感想文の書き方の違いを理解する。 |
| 6 | | 【武村】<br>自分の見せ方 | 自分自身を見つめ直し、上手な自己表現方法を学ぶ。<br>相手の立場に立って見せ方見られ方について考える。 |
| 7 | | 情報処理① | Ｍｓwordの基本的な使用方法 |
| 8 | | 情報処理② | Ｍｓwordの基本的な使用方法 |
| 9 | | 情報処理③ | PowerPointの基本的な使用方法 |
| 10 | | 情報処理④ | PowerPointの基本的な使用方法 |
| 11 | | 情報処理⑤ | Excelの基本的な使用方法 |
| 12 | | 情報処理⑥ | Excelの基本的な使用方法 |
| 13 | | キャリアをデザインする | 期待される姿に自分を近づける① |
| 14 | | キャリアをデザインする | 期待される姿に自分を近づける② |
| 15 | | 総まとめ | これまでの知識を統合し、現場でどう生かすかを考える。 |

| 科目名【英】 | 栄養学２ Nutrition 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 前田　美紀子 | 実務者経験 | 1989年8月～1998年4月病院に所属。2000年4～10月･2001年10月～2003年4月給食委託会社に所属。栄養士・管理栄養士業務を行う。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | (1) 美容目的やスポーツ選手の目的に応じた体づくりに役立つ栄養学の基礎的知識を学ぶ。<br>(2) スポーツ選手の競技力の向上に対応できる栄養学の基礎的知識を学ぶ。<br>(3) 美容とスポーツにおける、体の不調の予防・回復に役立つ栄養学の基礎的知識を学ぶ。 |
| 到達目標 | (1) 目的に応じた食生活を科学的に理解し、美容とスポーツのための体づくりに対応できるレベルに達する。<br>(2) スポーツ選手の競技力の向上を目指した栄養サポートに対応できるレベルに達する。<br>(3) 美容とスポーツにおける、体の不調の予防・回復に対応できるレベルに達する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 前期に配布済の栄養学Ｉの「テキスト」および「課題プリント」「まとめプリント」を復習する。 |
| 使用教材 | 配布プリント（栄養学Ⅱテキスト、課題） |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として「栄養学Ｉのテキスト」を持参し、活用することが望ましい。<br>副教材として生理学の教科書を参考書として活用することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　課題プリント２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 美容・スポーツ栄養学１ | 【オリエンテーション】<br>＊授業概要と授業目標の確認　＊受講ルール　＊成績評価法<br>＊美容栄養学・スポーツ栄養学の目的について説明ができる |
| 2 | | 美容・スポーツ栄養学２ | 【基本の栄養管理】<br>＊美容とスポーツのための栄養管理の概要について説明ができる |
| 3 | | 美容・スポーツ栄養学３ | 【基本の食生活の考え方】<br>＊美容・スポーツにおける基本の食生活の考え方について説明ができる |
| 4 | | 美容・スポーツ栄養学４ | 【スーパー・フード】<br>＊美容とスポーツのために、毎日とり入れたい食品とその効果が説明ができる |
| 5 | | 美容・スポーツ栄養学５ | 【効果的な栄養素のとり方】<br>＊栄養素の効果的なとり方と実践ポイントについて説明ができる |
| 6 | | 美容・スポーツ栄養学６ | 【スポーツにおける栄養法】<br>＊パフォーマンスの向上に役立つ栄養法のメリット・デメリットが説明ができる |
| 7 | | 美容・スポーツ栄養学７ | 【体格の評価】<br>＊美容栄養学におけるBMIの考え方について説明ができる<br>＊スポーツ選手の体格評価について説明ができる |
| 8 | | 美容・スポーツ栄養学８ | 【ウエイト・コントロール】<br>＊美容とスポーツのためのウエイト・コントロール法について説明ができる |
| 9 | | 美容・スポーツ栄養学９ | 【運動と食事のタイミング】<br>＊運動と食事・補食の質やタイミングについて説明ができる |
| 10 | | 美容・スポーツ栄養学10 | 【水分補給】<br>＊シチュエーションごとの水分補給の種類について説明ができる<br>＊運動時の水分補給について説明ができる |
| 11 | | 美容・スポーツ栄養学11 | 【美容・スポーツと筋肉づくり】<br>＊美しい筋肉づくり・筋肉強化に効果的な栄養素のとり方について説明ができる<br>＊プロテイン飲料・アミノ酸飲料のとり方について説明ができる |
| 12 | | 美容・スポーツ栄養学12 | 【美容・スポーツと骨づくり】<br>＊美しい骨・強い骨づくりに効果的な栄養素のとり方について説明ができる |
| 13 | | 美容・スポーツ栄養学13 | 【体の不調と栄養管理】<br>＊体の不調に効果的な食品の選び方と実践ポイントについて説明できる |
| 14 | | 美容・スポーツ栄養学14 | ＊美容栄養学・スポーツ栄養学のまとめ |
| 15 | | 美容・スポーツ栄養学15 | ＊後期 期末試験の解答・解説 |

| 科目名【英】 | 社会福祉学<br>Social Welfare | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 中川　るみ | 実務者経験 | 大阪保健福祉専門学校、京都府社会福祉協議会、大阪地方検察庁などに勤務し、現在に至る。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 「人が人を助ける」という行為が、社会の制度として位置づけられたのは、数世紀前です。医療従事者の方々が日々の業務を通じて患者やその家族などからさまざまな相談を受けることが多くなりました。対人援助の基本姿勢や各制度の説明の必要性とともに、　医療従事者には、特に高い人権意識が求められます。人権と制度を中心に学習します。 |
| 到達目標 | 人権と制度について理解し、柔道整復師としての心構えを身に着ける。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | |
| 使用教材 | 福祉にかかわる人のための人権読本　（法律文化社）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 社会福祉とは | わが国の人口問題と課題について考え、説明することができる。 |
| 2 | | 社会福祉の歴史（１） | 慈善事業の背景について考え、説明することができる。 |
| 3 | | 社会福祉の歴史（２） | 社会事業と貧困対策について考え、説明することができる。 |
| 4 | | 個人の尊厳と基本的人権 | 個人の尊厳の意義について考え、説明することができる。 |
| 5 | | 基本的人権の歴史（１） | 憲法前文と憲法条文について考え、説明することができる。 |
| 6 | | 基本的人権の歴史（２） | 新しい人権について考え、説明することができる。 |
| 7 | | 平等権の保障 | 法の下の平等について考え、説明することができる。 |
| 8 | | 財産権の保障 | 成年後見制度について考え、説明することができる。 |
| 9 | | 高齢者福祉 | 高齢者を取り巻く状況について考え、説明することができる。 |
| 10 | | 障害者福祉 | 障害者を対象とした法制度について考え、説明することができる。 |
| 11 | | 介護保険制度 | 制度の概要について考え、説明することができる。 |
| 12 | | 社会保障制度（１） | 医療保障について考え、説明することができる。 |
| 13 | | 社会保障制度（２） | 年金保障について考え、説明することができる。 |
| 14 | | 社会保障制度（３） | 雇用保険・労災保険について考え、説明することができる。 |
| 15 | | 全編のまとめ | 前期試験解説 |

| 科目名【英】 | 解剖学２ Anatomy 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 土曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 中島　琢人 | 実務者経験 | 2009年～2013年　しんたにクリニックにてスキー外傷診療補助<br>2014年～2018年　ハチ高原にてスキー場パトロール |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 消化器系、呼吸器系、生殖器系の正常構造について学ぶ。内分泌系の正常構造とホルモンを学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 内臓系の正常構造と位置関係を理解できる。内分泌系の正常構造とホルモンの名称と役割を理解できる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 講義前までに該当範囲を確認し、講義後は必ず復習を実施すること |
|---|---|
| 使用教材 | 解剖学　改訂第2版　(医歯薬出版)、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 文字だけで覚えるのではなく絵や動画なども合わせて、視覚的情報を用いて覚えるようにして下さい。 |

| 成績評価 | 期末筆記試験７０％　／　筆記小テスト２０％　／　平常点１０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 内臓 1 | 消化器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 2 | | 内臓 2 | 消化器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 3 | | 内臓 3 | 消化器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 4 | | 内臓 4 | 呼吸器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 5 | | 内臓 5 | 呼吸器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 6 | | 内臓 6 | 泌尿器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 7 | | 内臓 7 | 泌尿器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 8 | | 内臓 8 | 生殖器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 9 | | 内臓 9 | 生殖器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 10 | | 内臓 10 | 生殖器の役割　名称を理解し説明することができるようになる。 |
| 11 | | 内分泌 1 | 内分泌　（Ａ内分泌器の働き　Ｂ各種ホルモンの働き）<br>内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる |
| 12 | | 内分泌 2 | 内分泌　（Ａ内分泌器の働き　Ｂ各種ホルモンの働き）<br>内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる |
| 13 | | 内分泌 3 | 内分泌　（Ａ内分泌器の働き　Ｂ各種ホルモンの働き）<br>内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる |
| 14 | | 内分泌 4 | 内分泌　（Ａ内分泌器の働き　Ｂ各種ホルモンの働き）<br>内分泌の構造と各種ホルモンの働きを説明できる |
| 15 | | 試験解説 | 後期試験解説 |

| 科目名【英】 | 生理学２ Physiology 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 木曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 橘　吉寿 | 実務者経験 | 2003.11-現在　生理学・神経科学講座に在籍 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復師になる上で必要不可欠な全身の正常機能を統合的・包括的に理解するための生理学を学ぶ |
| 到達目標 | 生理学1では、消化・排泄など我々が生きていく上で必要な生体機能の基本原理を理解することを目標とする |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 予習は必要ではないが、難解な内容も含まれるため、復習は欠かせないと思われる |
| 使用教材 | 教科書『生理学』改訂第4版（医歯薬出版） |
| 留意点<br>備　考 | 副教材としてイラストレイテッド生理学をすすめる |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 尿の生成と排泄1 | 腎臓の構造と機能を説明する事ができる。 |
| 2 | | 尿の生成と排泄2 | 糸球体ろ過ならびに尿細管での再吸収機構を説明することができる。 |
| 3 | | 尿の生成と排泄3 | 尿の排泄機構をを説明することができる。 |
| 4 | | 栄養と代謝経路1 | 生体に必要な栄養素を説明することができる。 |
| 5 | | 栄養と代謝経路2 | 基礎代謝の概念を理解し、エネルギー代謝について説明することができる。 |
| 6 | | 消化と吸収1 | 消化器の構成要素を知り、消化液の分泌機序を説明することができる。 |
| 7 | | 消化と吸収2 | 消化器各器官での消化液ならびに消化ホルモンの作用機序を説明することができる。 |
| 8 | | 消化と吸収3 | 栄養素ごとの消化・吸収のメカニズムを説明することができる。 |
| 9 | | 体温調節のしくみ1 | 体温の生理的意義を学び、熱産生について説明することができる。 |
| 10 | | 体温調節のしくみ2 | 熱放散機構を理解し、体温調節機構についても説明することができる。 |
| 11 | | 内分泌総論 | 内分泌系の概要を理解する。 |
| 12 | | 内分泌各論1 | 視床下部・下垂体ホルモンについて説明することができる。 |
| 13 | | 内分泌各論2 | 甲状腺・副腎皮質ホルモンについて説明することができる。 |
| 14 | | 内分泌各論3 | 副腎髄質・膵臓ホルモンについて説明することができる。 |
| 15 | | 試験解説 | 試験の振りかえり<br>試験での問題点を振りかえる□ |

| 科目名【英】 | 柔道２ Judo 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 坂本 美和子 | 実務者経験 | 他校(専門学校)を含め週12時間以上、20年間講師を務める |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 初心者が柔道を学ぶための身だしなみから、礼法、怪我防止の為の受身、数本の技の習得、投げられても怪我をしない前回り受身を習得する。 |
| 到達目標 | 三年次、認定実技審査合格基準である『初段相当の実力を有する者』のための基礎を習得し、国家試験の必修に出題される問題に対応できる事を目標とする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 自宅でも練習できる礼法は毎日復習を望む。 |
| 使用教材 | 柔道衣、女子(肌の弱い男子)は丸首、白無地のＴシャツ |
| 留意点<br>備　考 | メリハリを付けて楽しく一生懸命取り組む事を望む。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 礼法と寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　寝技の説明を聞き、知り、学ぶ。　袈裟固を学び、できるようになる。 |
| 2 | | 礼法と寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　袈裟固の返し方を知り、できるようになる。袈裟固で受取20秒×3人 |
| 3 | | 礼法と寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　横四方固の受取を知り、できるようになる。横四方固めの受取20秒×3人 |
| 4 | | 礼法と寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　縦四方固の受取を知り、できるようになる。縦四方固めの受取20秒×3人 |
| 5 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転を知り、できるようになる。前転4回　試合の礼法の復習　相手を投げてからの(膝車)袈裟固を知り、学ぶ。 |
| 6 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　大腰の受取を知り、学ぶ。大腰からの袈裟固ができるようになる。 |
| 7 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　一本背負投からの袈裟固を知り、できるようになる。乱取1分×3人 |
| 8 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　小外刈からの連続技を知り、学ぶ。小外刈からの袈裟固ができるようになる。乱取1分×3人 |
| 9 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　大外刈を知り、学ぶ。小外刈からの大外刈を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人 |
| 10 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　体落を知り、学ぶ。小外刈からの体落を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人 |
| 11 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　払腰を知り、学ぶ。試験の大外刈を知り、学ぶ。乱取1.5分×3人 |
| 12 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　試験の大外刈の練習　乱取2分×3人 |
| 13 | | 礼法と立技からの寝技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　試験の大外刈の練習　乱取2分×3人 |
| 14 | | 礼法と立技 | 立礼と座礼。前回り受身2×3セット　前転4回　試合の礼法の復習　試験の説明と練習 |
| 15 | | 紅白試合 | 紅白試合を体験し、昇段審査を知り、学ぶ。 |

| 科目名【英】 | フィジカルエクササイズ講座<br>Course of Physical Exercise Skill | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1年 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 山田　靖典 | 実務者経験 | 2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 筋肉トレーニングを通じて運動器の仕組みや構造・機能を学び、NSPA-CPT取得を目的とする。<br>また健康な身体作りに関わる栄養や歩行・寝具などについても幅広く学ぶ |
|---|---|
| 到達目標 | NSPA-CPT資格を取得し、国家試験への自信付けを行う。また健康な身体作りに対し造詣を深め　ることで身体の構造や機能に興味を持つ |

| 準備学習<br>時間外学習 | |
|---|---|
| 使用教材 | NSPA教本、プリント資料 |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 実技試験１００％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 授業の流れ・この授業で学ぶこと |
| 2 | | lesson1 | トレーニング理論を学ぶ。NSPAでの考え方、トレーニング方法の理解を深める。 |
| 3 | | lesson2 | トレーニング理論を学ぶ。NSPAでの考え方、トレーニング方法の理解を深める。 |
| 4 | | lesson3 | マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（上肢１） |
| 5 | | lesson4 | マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（上肢２） |
| 6 | | lesson5 | マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（下肢１） |
| 7 | | lesson6 | マシンを利用したトレーニング方法について学ぶ（下肢２） |
| 8 | | lesson7 | マニュアルレジスタンスについて学ぶ（上肢） |
| 9 | | lesson8 | マニュアルレジスタンスについて学ぶ（下肢） |
| 10 | | lesson9 | 総復習（ペアを変えて実技） |
| 11 | | lesson10 | NSPA-CPT検定 |
| 12 | | 歩行動作１ | 歩行分析を元に適切なインソールや靴の選び方を学ぶ |
| 13 | | 歩行動作２ | 歩行分析を元に適切なインソールや靴の選び方を学ぶ |
| 14 | | 寝具１ | 睡眠と健康について学ぶ |
| 15 | | 寝具２ | 睡眠と健康について学ぶ |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　基礎各論１<br>Clinical Judo Therapy Basic 1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 竹田　英樹 | 実務者経験 | 1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。<br>2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。<br>2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 臨床現場でよく遭遇する脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 教科書を読んで予習・復習しておく。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 肩関節脱臼１ | 【解剖、概説、前方脱臼】<br>肩関節の構造を理解し、分類や症状について説明できる。 |
| 2 | | 肩関節脱臼２ | 【前方脱臼の実技】<br>前方脱臼の整復法や固定法を知り、反復性脱臼に移行しやすい理由を説明できる。 |
| 3 | | 肩関節脱臼３ | 【前方脱臼以外】<br>後方、下方、上方脱臼の特徴について説明ができる。 |
| 4 | | 肩関節部の軟損１ | 【筋、腱の損傷】<br>腱板損傷について説明ができる。 |
| 5 | | 肩関節部の軟損２ | 【筋、腱の損傷】<br>上腕二頭筋長頭腱損傷について説明ができる。 |
| 6 | | 肩関節部の軟損３ | 【スポーツ損傷１】<br>ベネット損傷、SLAP損傷について説明ができる。 |
| 7 | | 肩関節部の軟損４ | 【スポーツ損傷２】<br>肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について説明ができる。 |
| 8 | | 肩関節部の軟損５ | 【不安定症】<br>ルーズショルダーについて説明ができる。 |
| 9 | | 肩関節部の軟損６ | 【末梢神経障害】<br>肩甲上神経と腋窩神経の構造と絞扼障害について説明ができる。 |
| 10 | | 肩関節部の軟損７ | 【その他の肩軟損】<br>五十肩について説明ができる。 |
| 11 | | 小テスト | 肩関節脱臼、肩関節部軟損について理解を深める。 |
| 12 | | 肘関節脱臼１ | 【解剖、概説、後方脱臼】<br>後方脱臼の発生機序について説明ができる。 |
| 13 | | 肘関節脱臼２ | 【前方脱臼、側方脱臼、肘内障】<br>成人と小児の肘の構造の違いを理解し、肘内障について説明ができる。 |
| 14 | | 総復習 | 問題演習 |
| 15 | | 試験解説 | 試験解説 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　基礎各論２<br>Clinical Judo Therapy Basic 2 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 山本　将史 | 実務者経験 | 平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。 |
| 到達目標 | 臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の予習（特に筋学）が必要。 |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 授業の進め方、学習要綱、学習ポイントの説明 |
| 2 | | 頭蓋骨骨折 | 頭蓋骨骨折の各骨折の症状などの特徴について説明できる。 |
| 3 | | 頭蓋骨骨折・顔面骨骨折 | 頭蓋底、顔面部骨折について説明できる |
| 4 | | 頸椎骨折 | 頸椎骨折（ジェファーソン、椎体破裂、スコップ作業者等）について説明できる。 |
| 5 | | 胸椎骨折 | 胸椎骨折（椎体、突起部）について説明できる。 |
| 6 | | 腰椎骨折 | 腰椎骨折（圧迫、肋骨突起）について説明できる。 |
| 7 | | 腰椎骨折 | 腰椎骨折（チャンス骨折等）について説明できる。 |
| 8 | | 顎関節脱臼 | 顎関節脱臼について（前方脱臼）説明できる |
| 9 | | 顎関節脱臼 | 顎関節脱臼について（後方脱臼・側方脱臼）について説明できる |
| 10 | | 脊椎脱臼 | 頸椎脱臼について説明できる。 |
| 11 | | 脊椎脱臼 | 胸椎・腰椎脱臼について説明できる |
| 12 | | 頸部の軟部組織損傷 | 鞭打ち損傷について説明できる |
| 13 | | 頸部の軟部組織損傷 | その他の疾患（寝違え、胸郭出口症候群など）や注意すべき疾患について説明できる。 |
| 14 | | 総復習 | 問題演習 |
| 15 | | 試験解説 | 後期試験解説 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　基礎各論３<br>Clinical Judo Therapy Basic 3 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 堀口　晃一 | 実務者経験 | 整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 柔道整復学各論を骨盤骨折、大腿骨骨折を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の復習（特に筋学）が必要。 |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編第7版）・配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 腱の損傷１ | 腱の構造と機能・腱の補助装置・腱損傷の概説 |
| 2 | | 腱の損傷２ | 腱損傷の程度による分類・腱損傷部位による分類・腱損傷の治癒機序 |
| 3 | | 神経損傷１ | 神経損傷の分類・外力の働き方による分類 |
| 4 | | 神経損傷２・骨盤骨折１ | 末梢神経損傷の症状・末梢神経損傷の治癒機序・骨盤の機能解剖 |
| 5 | | 骨盤骨折２ | 骨盤骨骨折の分類・概説・治療法 |
| 6 | | 骨盤骨折３ | 骨盤輪骨折・合併症治療法 |
| 7 | | 大腿骨近位端部骨折１ | 大腿骨骨頭部骨折の概説・大腿骨頸部骨折の概説、症状 |
| 8 | | 大腿骨近位端部骨折２ | 大腿骨頸部骨折の治療法、パウエル・ガーデンの分類・治癒困難な理由 |
| 9 | | 大腿骨近位端部骨折３ | 大腿骨頸部骨折の合併症・大腿骨転子部骨折・大転子単独骨折・小転子単独骨折 |
| 10 | | 大腿骨骨幹部骨折１ | 大腿骨骨幹部骨折の概説・発生機序 |
| 11 | | 大腿骨骨幹部骨折２ | 大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、治療法、合併症 |
| 12 | | 大腿骨遠位部骨折１ | 大腿骨遠位端部骨折の分類、大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端腺離開 |
| 13 | | 大腿骨遠位部骨折２ | 大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折 |
| 14 | | 総復習 | 問題演習 |
| 15 | | 試験解説 | 後期試験解説 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　基礎各論４<br>Clinical Judo Therapy Basic 4 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 竹田　英樹 | 実務者経験 | 1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。<br>2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。<br>2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 外傷に関する解剖およびメカニズムから骨折と脱臼について学ぶ。 |
| 到達目標 | 臨床現場でよく遭遇する骨折、脱臼について理解し、説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 教科書を読んで予習・復習しておく。 |
| 使用教材 | 柔道整復学・理論編（南江堂）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として柔道整復学実技編no教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 鎖骨解剖 | 鎖骨の骨名称について説明できるようになる。 |
| 2 | | 鎖骨解剖 | 鎖骨に付着する軟部組織について説明できるようになる。 |
| 3 | | 鎖骨機能解剖 | 鎖骨の運動機能について説明できるようになる。 |
| 4 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の概説と発生機序について説明できるようになる。 |
| 5 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。 |
| 6 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の整復法について説明できるようになる。 |
| 7 | | 鎖骨骨折 | 鎖骨骨折の固定法について説明できるようになる。 |
| 8 | | 肩鎖関節脱臼 | 肩鎖関節脱臼の概説と発生機序について説明できるようになる。 |
| 9 | | 肩鎖関節脱臼 | 肩鎖関節脱臼の症状、合併症、後遺症について説明できるようになる。 |
| 10 | | 肩鎖関節脱臼 | 肩鎖関節脱臼の整復法について説明できるようになる。 |
| 11 | | 肩鎖関節脱臼 | 肩鎖関節脱臼の固定法について説明できるようになる。 |
| 12 | | 胸鎖関節脱臼 | 胸鎖関節脱臼の概説と分類を説明できるようになる。 |
| 13 | | 胸鎖関節脱臼 | 胸鎖関節脱臼の症状および固定法、予後について説明できるようになる。 |
| 14 | | 復習 | 指導管理 |
| 15 | | 後期まとめ | 鎖骨の役割を振り返り、再度メカニズムを考える。 |

| 科目名【英】 | 臨床柔整学　基礎各論５<br>Clinical Judo Therapy Basic 5 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 水曜日 | 時　限 | 6 |

| 担当教員 | 山本　将史 | 実務者経験 | 平成14年4月より自院開院（柔道整復・鍼灸・あんまマッサージ指圧師として）現在に至る |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 柔道整復学各論を肩部を中心として部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを学ぶ。 |
| 到達目標 | 臨床の現場あるいは柔道整復師国家試験に対応できるよう、部位別に発生機序、症状、整復法、固定法などを説明できるようになる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の予習（特に筋学）が必要。 |
| 使用教材 | 柔道整復学（理論編）配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | オリエンテーション | 柔道整復学を学ぶ意義について<br>授業の目的を答えられる |
| 2 | | 肩甲骨骨折 | 肩甲骨骨折について説明できる |
| 3 | | 肋骨骨折 | 肋骨骨折の分類・発生機序・症状について説明できる |
| 4 | | 肋骨骨折 | 肋骨骨折の合併症等について説明できる |
| 5 | | 肋骨骨折 | 肋骨骨折の治療について説明できる |
| 6 | | 肋骨骨折 | 肋骨骨折（総論）について説明できる |
| 7 | | 胸骨骨折 | 胸骨骨折（分類・発生）について説明できる |
| 8 | | 胸骨骨折 | 胸骨骨折（症状・治療）について説明できる |
| 9 | | 胸肋関節損傷 | 胸肋関節損傷について説明できる |
| 10 | | 胸・背部の軟部組織損傷 | 肋間筋損傷、打撲について説明できる |
| 11 | | 背部の軟部組織損傷 | 背部の軟部組織損傷について説明できる |
| 12 | | 腰部の軟部組織損傷 | 腰部の軟部組織損傷について説明できる |
| 13 | | 腰部の軟部組織損傷 | 腰痛について説明できる |
| 14 | | 総復習 | 後期全体の復習・質問 |
| 15 | | 試験解説 | 解説・復習<br>後期内容を振り返り、ポイントを説明できる |

| 科目名【英】 | 物理療法学<br>Physical Therapy Equipment | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 15 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 岩本　暁美 | 実務者経験 | 2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 物理療法機器の原理、使用方法、効果、禁忌について学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 物理療法機器の原理、作用などを学び、診療に役立てることができるようになる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | |
|---|---|
| 使用教材 | 柔道整復学理論編、プリント配布 |
| 留意点<br>備　考 | 50分授業 |

| 成績評価 | 期末筆記試験８０％　／　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 安全対策 | インフォームドコンセント、禁忌について理解する。 |
| 2 | | 電気療法１ | 概要、電気刺激の３要素について理解し、説明できるようになる。 |
| 3 | | 電気療法２ | 低周波電気刺激療法について理解し説明できるようになる。 |
| 4 | | 電気療法３ | TENS、低周波電気刺激療法、中周波電気療法の効果、禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 5 | | 温熱療法１ | 電動熱療法（ホットパック療法）の使用方法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 6 | | 温熱療法２ | パラフィン浴療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 7 | | 温熱療法３ | 輻射熱療法（赤外線療法）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 8 | | 温熱療法４ | 変換熱療法（マイクロ波）の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 9 | | 温熱療法５ | 超音波療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 10 | | 光線療法 | 光線療法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 11 | | 寒冷療法１ | 概要、伝導冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 12 | | 寒冷療法２ | 対流冷却法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 13 | | 牽引療法 | 頸椎介達牽引の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 14 | | その他 | 間欠的圧迫法の使用法、適応と効果、注意と禁忌について理解し説明できるようになる。 |
| 15 | | 試験解説 | 試験の振り返り・復習 |

| 科目名【英】 | 基礎包帯固定学２<br>Basic Method of Bandage and Fixation Procedures | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 岩崎英明 | 実務者経験 | 1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 基本包帯を巻けるようになる。<br>三角巾、樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。 |
| 到達目標 | 基本包帯を巻けるようになる。<br>樹脂固定材料の基本的な使用方法を体得する。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 時間外でも包帯を扱う時間をとって、包帯に手を馴染ませることが必要です。 |
| 使用教材 | プリント配布 |
| 留意点<br>備　考 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実技試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 三角巾 | 三角巾で提肘できるようになる。 |
| 2 | | 肘の包帯 | 肘関節集合亀甲帯が巻けるようになる。 |
| 3 | | 副子作成１ | 各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。 |
| 4 | | 副子作成２ | 各種骨折、脱臼の固定に必要な副子を厚紙で作成する。 |
| 5 | | 枕子作成 | 各種骨折、脱臼の固定に必要な枕子を綿花、ガーゼで作成する。 |
| 6 | | 肩の包帯１ | 肩関節上行麦穂帯の巻き方を知る。 |
| 7 | | 肩の包帯２ | 肩関節上行麦穂帯が巻けるようになる。 |
| 8 | | 肩の包帯３ | 肩関節下行麦穂帯が巻けるようになる。 |
| 9 | | 樹脂副子１ | プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。 |
| 10 | | 樹脂副子２ | プライトン副子の基本的な使用方法を学ぶ。 |
| 11 | | 特殊包帯法１ | デゾー包帯第１帯、第２帯 |
| 12 | | 特殊包帯法２ | デゾー包帯第３帯、第４帯 |
| 13 | | 特殊包帯法３ | デゾー包帯第３帯、第４帯 |
| 14 | | 総復習 | 三角巾、肘関節離開・集合亀甲帯、肩関節上行麦穂帯の復習練習を行う。 |
| 15 | | まとめ | 試験結果よりフィードバックして苦手な包帯法を習得する。 |

| 科目名【英】 | 臨床実習１<br>Clinical Training1 | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 45 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 月曜日 | 時　限 | 5.6.7 |

| 担当教員 | 山田　靖典　/　岩本　暁美 | 実務者経験 | （山田）2001年～2008年まで長嶋整形外科勤務<br>（岩本）2007年5月～2010年6月　接骨院に所属 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 主要関節の評価を行う（SFMA Selective Functional Movement Assessment）<br>物理療法機器を体験することで患者の気持ちを理解し、効果と禁忌について理解する。 |
|---|---|
| 到達目標 | 関節の機能不全について明確に原因を導き出す。そのために運動器（筋肉）の知識が必要であると理解する。<br>患者に物理療法の適応と禁忌を説明し実施することができる。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 筋肉の理解が必要となるため起始停止作用は各自で理解する。 |
|---|---|
| 使用教材 | プリント資料 |
| 留意点<br>備　考 | 毎回筋肉の小テスト実施 |

| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | 臨床実習について | 臨床実習の意義を理解する。また評価法に興味を持たす | 90分 |
| 2 | | SFMAについて | SFMA（評価法）の目的・ルールを覚える。 | 90分 |
| 3 | | 頸椎評価法 | 頸椎の評価を知る。 | 90分 |
| 4 | | 頸椎評価法 | 頸椎の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる | 90分 |
| 5 | | 頸椎治療法 | 頸椎の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする | 90分 |
| 6 | | 肩評価法 | 肩関節の評価を知る | 90分 |
| 7 | | 肩評価法 | 肩関節の評価に関わる筋肉の触診が出来るようになる | 90分 |
| 8 | | 肩治療法 | 肩関節の作用に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする | 90分 |
| 9 | | 多分節屈曲評価法 | 体幹の屈曲動作評価を知る | 90分 |
| 10 | | 多分節屈曲評価法 | 体幹の屈曲動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる | 90分 |
| 11 | | 多分節屈曲治療法 | 体幹の屈曲動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする | 90分 |
| 12 | | 多分節伸展評価法 | 体幹の伸展動作評価を知る | 90分 |
| 13 | | 多分節伸展評価法 | 体幹の伸展動作に関わる筋肉の触診が出来るようになる | 90分 |
| 14 | | 多分節伸展治療法 | 体幹の伸展動作に関わる筋肉を触診し、治療できるようにする | 90分 |
| 15 | | 筋肉テスト | 筋肉名を問いかけ起始停止を答える。作用は自分で動作を行う | 90分 |
| 16 | | 臨床実習の心得 | 臨床実習とは何か、柔道整復師の治療法・後療法・物理療法の定義、分類について理解する。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 | | 電気療法１ | 低周波療法を体験し効果を理解する。 |
| 18 | | 電気療法２ | ＳＳＰ療法を体験し効果を理解する。 |
| 19 | | 電気療法３ | 干渉波療法を体験し効果を理解する。 |
| 20 | | 電気療法４ | EMS、マイクロカレントを体験し効果を理解する。 |
| 21 | | 温熱療法１ | 伝導熱療法（湿性ホットパック、乾性ホットパック）を体験し効果を理解する。 |
| 22 | | 温熱療法２ | 輻射熱療法（赤外線療法）を体験し効果を理解する。 |
| 23 | | 温熱療法３ | 変換熱療法（マイクロ波療法）を体験し効果を理解する。 |
| 24 | | 温熱療法４ | 伝導熱療法（パラフィン浴療法）を体験し効果を理解する。 |
| 25 | | 温熱療法５ | 変換熱療法（超音波療法）を体験し効果を理解する。 |
| 26 | | 寒冷療法 | 伝導冷却療法（アイスパック）、気化冷却法（コールドスプレー）を体験し効果を理解する。 |
| 27 | | 牽引療法１ | 腰部牽引を体験し効果を理解する。 |
| 28 | | 牽引療法２ | 頚部牽引を体験し効果を理解する。 |
| 29 | | 光線療法 | レーザー光線療法を体験し効果を理解する。 |
| 30 | | 間欠的圧迫法 | メドマーを体験し効果を理解する。 |

| 科目名【英】 | 柔整解剖Ｂ<br>Anatomy of Judo Therapy Ｂ | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 火曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 本田　珠美 | 実務者経験 | 2022年4月から付属接骨院にて勤務 |
|---|---|---|---|

| 学習内容 | 筋の名称、起始、停止、支配神経、作用と生体観測と生体計測を学ぶ。 |
|---|---|
| 到達目標 | 筋の名称、起始、停止、支配神経を覚え、体表からその位置を理解することによって、筋の作用（動き）を理解する。 |

| 準備学習<br>時間外学習 | 前時間の復習と前期に行った骨の各部の名称の復習を行う。 |
|---|---|
| 使用教材 | 教科書『解剖学』（医歯薬出版株式会社）、配布プリント |
| 留意点<br>備　考 | |

| 成績評価 | 期末筆記試験７０％　／　筆記確認テスト１０％　／　平常点２０％ |
|---|---|

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 筋１ | 上肢帯の筋<br>上肢帯の筋の起始・停止・支配神経を知り、作用を説明できる。 |
| 2 | | 筋２ | 上腕の筋　前腕の屈筋<br>上腕の筋や前腕の屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。 |
| 3 | | 筋３ | 前腕の屈筋・伸筋<br>前腕の屈筋・伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また手根管を通過するものを説明できる。 |
| 4 | | 筋４ | 前腕の伸筋<br>前腕の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また伸筋支帯の６つのトンネルを理解し、通過するものを説明できる。 |
| 5 | | 筋５ | 手の筋　内寛骨筋<br>手の筋や内寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。 |
| 6 | | 筋６ | 下肢帯の筋（外寛骨筋）<br>外寛骨筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。また筋裂孔、血管裂孔、梨状筋上孔・下孔を理解し、通過するものを説明できる。 |
| 7 | | 筋７ | 大腿の屈筋・伸筋・内転筋<br>大腿の屈筋・伸筋・内転筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またハムストリングスを説明できる。 |
| 8 | | 筋８ | 大腿の内転筋　下腿の伸筋<br>大腿の内転筋や下腿の伸筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。またスカルパ三角・鵞足を説明できる。 |
| 9 | | 筋９ | 下腿の屈筋・腓骨筋　顔面筋<br>下腿の伸筋・腓骨筋・屈筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。 |
| 10 | | 筋１０ | 足の筋　咀嚼筋　浅頚筋　舌骨上・下筋　深頚筋<br>咀嚼筋や浅頚筋や舌骨上・下筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。 |
| 11 | | 筋１１ | 深頚筋　胸部の筋<br>深頚筋、胸部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。 |
| 12 | | 筋１２ | 胸部の筋　腹部の筋<br>胸部の筋、腹部の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。吸気と呼気に分けることができる。また横隔膜の孔を通過するものを説明できる。 |
| 13 | | 筋１３ | 浅・深背筋　頭蓋底　頚部の三角<br>浅・深背筋の筋の起始・停止を知り、作用を説明できる。頭蓋底の孔に通る血管・神経や頚部の三角を説明できる |
| 14 | | 筋１４・骨 | 体表解剖P280～296<br>体表から筋・血管を触知、確認できる。神経の圧痛点を確認できる。 |
| 15 | | テスト解説<br>まとめ | テスト解説<br>一年間のまとめ。 |

| 科目名【英】 | 柔整生理B<br>Physiology of Judo Therapy B | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 講義 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 2 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 土曜日 | 時　限 | 5 |

| 担当教員 | 上田　純 | 実務者経験 | 2002年6月～2010年3月大学病院、公立病院に所属、2010年4月以降自身が代表するクリニックで歯科医師として診療に従事。 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 医療従事者として相応しい生理学の知識、思考能力を獲得する。 |
| 到達目標 | 人体の機能を理解することで、生理学のみならず、他の臨床系科目等も理解できるようになる。また医療従事者として必要な知識を身につけることができる。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 授業で学んだことは復習する。プリント、ノートだけではなく、該当する範囲の教科書も熟読すること。 |
| 使用教材 | 教科書「生理学　第4版」（南江堂） |
| 留意点<br>備　考 | 解剖学の関連部分も教科書等でチェックしておくこと |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 筆記試験８０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 筋① | 骨格筋、平滑筋、心筋の違いについて説明できる。 |
| 2 | | 筋② | 興奮収縮連関について説明できる。 |
| 3 | | 筋③ | 筋と張力、長さの関係について説明できる。 |
| 4 | | 筋④ | 平滑筋、心筋について説明できる。 |
| 5 | | 感覚① | 感覚の分類について説明できる。 |
| 6 | | 感覚② | 一般感覚の種類、内容について説明できる。 |
| 7 | | 感覚③ | 嗅覚、味覚について説明できる。 |
| 8 | | 感覚④ | 目の生理学的機能、視覚について説明できる。 |
| 9 | | 感覚⑤ | 聴覚、前庭感覚について説明できる。 |
| 10 | | 生殖① | 発生学的観点から、生殖系について説明できる。 |
| 11 | | 生殖② | 男性生殖器とその機能について説明できる。 |
| 12 | | 生殖③ | 女性生殖器とその機能について説明できる。 |
| 13 | | 骨① | 骨の構造と成長について説明できる。 |
| 14 | | 骨② | カルシウム代謝と内分泌、ビタミンとの関係について説明できる。 |
| 15 | | 試験返却 | 試験返却【後期で学んだ全範囲】<br>筋、感覚を中心とした生理学について説明できる。 |

| 科目名【英】 | 基礎医学講座<br>Course of Basic Medicine | | | 必修/選択 | 必修 | 授業形式 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 総時間数 | 30 | 単　位 | 1 |
| 学　年 | 1 | 学　期 | 後期 | 曜　日 | 金曜日 | 時　限 | 7 |

| 担当教員 | 本田　珠美 | 実務者経験 | 2022年4月から付属接骨院にて勤務 |
|---|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 学習内容 | 骨模型を使用し骨の各部位を立体的に知り、骨の特徴を理解する。<br>骨に付着する筋肉の起始停止を知り、理解する。 |
| 到達目標 | 模型の観察を通じて、骨の部位名称・左右・筋肉の起始停止を説明できるようになり、骨折や脱臼の転位・整復の理解をしやすくなるようにする。 |

| | |
|---|---|
| 準備学習<br>時間外学習 | 解剖学の教科書を確認しておく。 |
| 使用教材 | 配布プリント、骨模型 |
| 留意点<br>備　考 | 副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 実習の期末試験７０％　/　確認筆記試験１０％　/　平常点２０％ |

| 授業計画　【テーマ・内容･目標】 | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | | 導入教育・骨総論 | この科目が今後に対して重要であることを周知してもらう。<br>骨の特徴を触れて部位事の特徴を知る。　部位名称の特徴を説明できる。 |
| 2 | | 上肢帯 | 鎖骨・肩甲骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 3 | | 上肢帯 | 鎖骨・肩甲骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 4 | | 自由上肢骨 | 上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。 |
| 5 | | 自由上肢骨 | 上腕骨～手指について学習しポイントの理解を深める。 |
| 6 | | 確認試験① | 上肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。 |
| 7 | | 下肢帯 | 寛骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 8 | | 下肢帯 | 寛骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 9 | | 自由下肢骨 | 大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 10 | | 自由下肢骨 | 大腿骨～趾骨について学習しポイントの理解を深める。 |
| 11 | | 確認試験② | 下肢骨の確認試験を行い知識の定着を図る。 |
| 12 | | 上肢の筋 | 上肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。 |
| 13 | | 下肢の筋 | 下肢で必要最低限覚えておいてほしい筋を学習し、触知する。 |
| 14 | | 総復習 | 履修した内容について再度確認を行う |
| 15 | | 試験解説 | 前期末試験の解説 |